

識別番号	P 5	2007 年度終了学内共同研究
研究課題	バンテアイ・クデイ寺院から発掘された廃仏 274 体の比較研究	
研究代表者	石澤良昭（アジア人材養成研究センター）	
共同研究者	Cyril Veliath（外国語学部アジア文化研究室）、丸井雅子（外国語学部アジア文化研究室）、Nhim Sotheavin（アジア文化研究所客員研究所員）	
Summary	Comparative study on the 274 discarded Buddhistic statues excavated from Banteay Kdei, Angkor	

The Sophia University Angkor International Mission has been carrying out archaeological survey at Banteay Kdei since 1991. The recent discovery of 274 discarded Buddhist statues in Banteay Kdei, has shaken the accepted historical views of what actually happened during the reign of Indravarman 2 and Jayavarman 8, which contend that during the final year of the Angkor dynasty the people were exhausted from the construction of too many temples. This study is to present an overview of the statues and to clear

1. 本研究の目的および背景

【背景】

本学アジア人材養成研究センターは 2000 年から 2001 年にかけて、カンボジア国バンテアイ・クデイ遺跡から、274 体の廃仏および千体仏石柱を発掘した。

アンコール王朝（9 世紀から 14 もしくは 15 世紀半ば頃まで）約 600 年間の立国の思想はカンボジア版ヒンドゥー教であった。ジャヤヴァルマン 7 世は仏教を国教とし、都城アンコール・トムを 12 世紀末に建設した。ジャヤヴァルマン 8 世はヒンドゥー教を掲げ、先王（ジャヤヴァルマン 7 世）を象徴する仏教を徹底的に否定することで、自らの王権強化をねらった。具体的には仏像破壊が見せしめ的に断行されたと考えられる。

バンテアイ・クデイは、ジャヤヴァルマン 7 世期に建立された仏教寺院である。発掘によって出土した廃仏群は、往時はバンテアイ・クデイ内に奉納され、後の仏像破壊の対象となったことが推測される。発掘調査では、それらの廃仏群が境内に掘られた坑に埋められ、土で覆われて塚のようなものが築造されたことも明らかになった。

これらの 274 点の廃仏および千体仏石柱は、2007 年 11 月に完成したシハヌーク博物館（カンボジア国シェムリアップ）に所蔵および展示されている。

【目的】

発掘調査によってこれだけの数の廃仏群が出土した例は他にない。また、一括遺物として、歴史学、考古学および美術史分野においてはその資料価値が高く評価されている。本研究は、廃仏群に含まれる観世音菩薩像、ナーガ上の仏陀坐像等の各像容の図像理解を進めることを目的とする。またその成果の社会還元のひとつとして、上述のシハヌーク博物館における展示解説の作成を目標とした。

2. 研究の方法・内容と共同研究員の役割分担

歴史学からの考察は、碑文の読み直し作業を踏まえ廃仏行為の背景と、アンコール期の仏教お

よび仏教寺院の概容の解明を目指した。考古学からの考察は、発掘調査によって観察された仏像埋納坑の特徴を整理し、廃仏と共伴した金属製品（所謂「鉛塊」）の化学分析等を実施した。美術史からの考察は、廃仏群の特徴を観世音菩薩およびナーガ上の仏陀坐像に大分類し、それぞれの像容の解釈を関連資料や文献、経典などと比較研究した。

3. 研究の成果

[研究会および公開セミナーの実施]

歴史学分野の研究成果公開および活動として、計 9 回の研究会および公開セミナーを実施した。テーマは次の通り：

第 1 回 アンコール・ワット付近から大量の廃仏発見

第 2 回 なぜアンコール王朝末期に仏像の大量破壊が起こったか

第 3 回 比較研究ヒヤリング「火と水の文化－仏像光背の流伝－」（講師：一島正真先生（大正大学））

第 4 回 海のシルクロードと東南アジア古代国家の形成

第 5 回 アンコール王朝とポスト・アンコール時代の政治混乱

第 6 回 「アンコール文明」の精神価値体系－神の世界を演出する女神と極楽浄土－

第 7 回 ほとぼしるエネルギーと仏土三千世界の美術－アンコール仏への招待－

第 8 回 全ての道はアンコールへ－王道石橋の考察から－

第 9 回 アンコール都城の造営と立国の宇宙観

[出土遺物の科学分析および学会における口頭発表]

考古学分野からは、廃仏および千体仏石柱が出土した仏像埋納坑の特徴と性格を解明した。その一つが、廃仏と共伴した金属製品である。出土状況から判断すると、意図的に埋められたことは明らかであり、廃仏の埋納に際して何らかの儀礼が行われたことが類推される。同様の金属製品は、アンコール遺跡群においてこれまで数点の発見例があり、フランス極東学院は「鉛 (plomb) 塊」と報告している。

今回あらためて、仏像埋納坑出土のこの金属製品を一部日本に持ち帰り成分分析にかけたところ、錫を主体とする鉛との合金であることが判明した。この種の合金塊は、アンコール期にインゴット（鋳塊）として出回り、一方では建造物の鎮壇具や副葬品などに用いられる聖遺物としての機能もあったと考えられる。

この分析結果等は、日本考古学協会にて発表した（第 73 回総会研究発表：2007 年 5 月開催、於明治大学）。

[廃仏群像容の図像理解と博物館展示解説の作成]

研究代表者石澤良昭の指導のもと、丸井雅子、宮崎晶子（日本学術振興会特別研究員）、松浦史明（日本学術振興会特別研究員）等が、博物館展示の構想および展示解説を作成した。展示解説は、カンボジア側専門家との連携により、全てをカンボジア語、英語、日本語の三ヶ国語で作成した。